

「知識確認」による精神的負担で 「安全・安定輸送」は大丈夫！？

**皆さん！猛暑の中、大汗かきながら分厚い制服着用で
夏季輸送に従事され、大変お疲れ様です！**

5月の「知識確認」から3ヶ月が経過しました。

この「知識確認」は必要性に疑問だらけの導入目的や、一貫して不平等・不公平な条件もさることながら、ペナルティの「追試」、そして乗務外しのフォローの「日勤」を受ける乗務員にとっては、ゴールデンウィークから夏季輸送期間の長期に渡り、「安全・安定輸送」を遂行する任務にして精神的苦痛を受けるばかりで、なんのメリット也没有ありません。

事あるごとに管理者は「他事を考えずに、業務に集中しろ！」と言いますが、言ってることとやることが矛盾だらけで、本当に安全のことを考えているのか疑いたくなります。

「知識確認」は毎年5月に試験が実施され、基準に満たない場合に6月、7月にかけて2回の追試験が実施され合計3回の試験に落ちた場合、8月から乗務を外され「日勤」となるのです。毎年、その範囲は広がり内容也多岐に渡っているので仕事をしながらの学習には限界があります。

残念ながら、大二運輸所でもこの「知識確認」の犠牲になっている乗務員がいますが、是非早急に本人の精神的負担を取り除いて、本来業務に集中できるようにしてもらいたいと願います。

聞くとところによると、名古屋運輸所では7名が「知識確認」において、8月フォローの「日勤」になっていて、要員がひっ迫して「休日出勤」をさせて要員を確保しなければならない状態であると言われています。

職場では7月の「追試」を前に、乗り継ぎ詰所で乗務前に「知識確認」の資料に必死で目を通す姿を見ると、本当に安全のために役立っているのか疑問に感じます。

乗務員の要員ひっ迫、精神的負担（本来業務に集中できない状態）は「安全・安定輸送」の根幹をも覆すことにつながりかねません！

**「安全・安定輸送」を脅かす、試験のための「知識確認」
は直ちに廃止せよ！**